

シリーズ「乳がん②」

乳がん治療を受ける患者さんのケア

独立行政法人国立病院機構和歌山病院

看護部

木村 優里

今回は乳がんの「手術療法」、「抗がん剤治療」を受けられる時のケアについてお話しします。

【手術を受ける時】

最近の乳がんの手術では、切る箇所を小さくして乳房を温存する方法や乳房再建など、できるだけ乳房を残した手術が増えてきています。とはいえ、手術の経過をみるためにあることでしょう。今回

受けた当日は、注射で痛みを軽減しますが、手術翌日からは食事ができ、歩くことも可能です。早く回復するために理学療法士によるリハビリも開始され、日常生活に戻れるように看護師もお手伝いをします。

【抗がん剤治療を受ける時】
はじめて抗がん剤治療を受ける時には、副作用や薬の影響を考え、入院して治療を開始します。副作用や全身状態に問題のない場合は、その後の治療は外来で行われます。以前と比べて副作用の多くは薬で対処でき、症状も軽くさせることができます。今回、主に3

①食欲不振が強い場合、口あたりの良い、食べやすい食事に変更したりします。少しでも食べて頂けるように栄養士も含めて一緒に考えます。これらの症状は抗がん剤による一時的なもので回復します。

②脱毛は投与後数週間で見えます。抗がん剤の種類や個人差により、髪だけでなくまつ毛や体毛にも起こります。外見の大きな変化となるため女性にとって精神的につらい症状です。治療の前に髪を短くする、ウィッグや帽子を用意する等の工夫があります。頭皮も弱くなっているため低刺激シャンプーがあるとい

は治療の時どんなことを行うのか説明します。まず手術では、手術の前に術後や退院までの流れについて看護師が説明を行い、イメージを持ってもらうことで不安の軽減に努めています。手術後は、点滴や酸素、創部のチューブなど色々な管が付いており、これらは手術の経過をみるために重要となります。手術を

乳房の変形や喪失と言った経験は、女性にとつて衝撃的な出来事です。気分が落ち込んでしまふ方や人目を気にして外出できない方もいます。補整下着等の着用によって、外見からは分かりにくくすることがあります。病院には乳がん患者用下着の力タログを置いてあります。看護師も相談のりますので、声を

③注意が必要な症状は、白血球が減少することにより感染が起りやすくなることです。抵抗力が落ちてい

たため、症状が悪化しやすくなります。うがい、手洗い、風邪の予防などについて看護師から説明します。

その他にも薬により下痢、便秘、手足のしびれなどさまざまな副作用があります。医師、看護師、薬剤師が協力して治療にあたります。がんの認定看護師もおり、みなさんのサポートをさせていただきます。

県内には乳がん患者の会があり、体験や情報の交換をしたり親睦を深めたりする場があります。一人で不安を抱えず、ぜひ、ご相談下さい。